

## こんなガイドマップが欲しかった

結婚を機に移住して10年以上経ちますが、子育ての悩みは尽きません。ほかの自治体にある子育て情報マップを見て、「こんなガイドマップが那須塩原市にもあればいいのに」と日ごろから思っていました。そんなとき、広報誌で制作メンバーを募集していることを知り、応募しました。制作に携わって真っ先に感じたことは、「悩んでいたのは私だけじゃなかったんだ」ということ。それだけで少し安心したという



あゆみ  
篠原 歩さん  
りく  
莉空くん

か、嬉しかったです。みんなと楽しく協力して作ったガイドマップは想像以上に素敵なものになりました。私の周りには「次回があれば参加したい」と言っている友だちもいるので、こういった輪がどんどん広がってほしいですね。

## 勇気を出して参加してよかった

九州から移住してきたため頼る人がなくて、とても苦労していました。そんな時、制作メンバー募集のチラシを見て、「私の子育ての経験が役に立てば」との思いから参加。本当に一からのスタートで驚きましたが、楽しみながら制作ができ、今までにないものが完成しました。この冊子の巻末の制作メンバーの写真を見たママさんから、子育てサロンで声をかけられて話が広がり、欲しいと言ってもらえたりといった反響も。また、掲載されているお店から「どういうものがあるかと来やすいか」とこちらが質問されるなど、お店にとっても価値のある取り組みだったのではないかと感じています。人見知りなので、参加には勇気がいりましたが、今は参加してとてもよかったと思っています。



ならぶ  
奈良部 奈保子さん  
ほのか  
穂花ちゃん



## Nasushiobara HAPPY PLACE Guide MAP

### 素敵な人たちに会えるマップ——

「子ども用の食器が置いてあるお店」「キッズスペースがある場所」。マップに載せるお店やスポットの基準はどうしよう…。参加者で話し合っただけの答えは「また会いたいと思える人がいる場所」でした。「心細かったときにお店の人に会って元気をもらった」「赤ちゃんかわいいね。いつでも遊びにおいでと話しかけてくれた」…。

そんな素敵な人がある場所が、ママたちが紹介したいと選んだ場所。だからこそ、ママたちも同じように誰かの手助けをしようと、今度はそんな場所を紹介する側になれたのかもしれない。

### たくさんの人の思いを1冊に載せて——

制作に携わったママたちだけでなく、思いに共感してくれた人や掲載されているお店なども、SNS や口コミで紹介されたり店舗に置いてくれたり、那須塩原の素敵な場所を紹介する地図としてママ以外の人からも「欲しい」と言われるなど、想像以上の広がりがありました。

「ぬくもりを感じられるものにしたい」と、多機能型事業所「心の里」で牛乳パックを細かくちぎり1枚1枚手作りした再生紙を表紙に使用。細かい製本作業も何人もの人の手で丁寧に行われています。ほかにも、「持っているだけでワクワクするものにしたい」という気持ちを酌んで何度も修正に応じてくれたデザイナーさんなど、たくさんの人の思いが詰まっています。「無料配布ではあるものの、大切に使ってほしい」「一人でも多くの必要としている人に届けたい」。そんな思いが込められた1冊をぜひ手に取ってみてください。



マップを紹介してくれているお店



心の里での制作風景

▶ガイドマップ配布場所

- ☒シティプロモーション課、移住促進センター、☒子育て支援課、箒根出張所
- ▶問い合わせ
- ☒シティプロモーション課 ☎0287(62)7128

WEB版のガイドマップはこちら

# 同じ悩み みんなで解決

「子育て情報がもっと欲しい」という共通の悩みを持ったママたちが集まり作り上げた「子育てガイドマップ」。作成のきっかけや思い、制作の裏側を紹介します。

### 同じ思いの人がいるはず

「もっとまとまった情報が欲しい」。妊娠をきっかけに、将来の子育てに対する漠然とした不安から情報を調べている中でこの感じた市地域おこし協力隊の沼崎さん。「このまちの子育て情報が載っているマップがあれば」と、自ら作ろうと決めたという。

「私と同じ思いをしている人はいるはず」。そう考えた沼崎さんは、まずたくさんの人の情報を取り入れようと制作メンバーを募集。チラシや広報誌などで呼びかけたところ、17人ものママたちが参加してくれた。「生まれ育ったまちなのに、子どもができてからはまるで知らないまちに見えた」とどこに行けばほかのママに会えるのか分からなかった。参加の理由を聞

くと、当時のつらい状況を思い出し、泣き出してしまいう人もいたという。

ママたちは、子育て情報を提供してくれただけでなく、実際にお店に足を運び、写真の撮影や掲載交渉まで自発的に行ってくれた。こうしてこのまちのたくさんの情報が集まり、「いつでも持ち運んで見てほしい」との思いから冊子にすることに決めた。

制作の過程で、「一人では難しいことでも、同じ思いを持つ人が集まれば解決できることがある」と沼崎さんは改めて感じたという。「子育ての悩みを少しでも解決できれば」とたくさんのママたちの思いが詰まったこの冊子が、きっと誰かの心を軽くしてくれているはずだ。

### 制作のようす

3回のワークショップを開催し、限られたスペースにどんな情報を載せればよいか、一から話し合い決めていきました。制作の過程で、日々やり取りを行ったり行動を共にしたことなどで新たな仲間ができるなど交流の場にもなっていました。



市地域おこし協力隊  
沼崎恵理さん  
はると  
勇斗くん